

1 単元名 第2編 第2章 世界の諸地域 ～4節 北アメリカ州～

2 単元について

(1) 単元観 本単元は、中学校学習指導要領の地理的分野(2) 内容 B世界の様々な地域(2) 世界の諸地域を取り扱う。大項目では、世界と日本の地域構成の学習成果を踏まえ、世界の多様な地域とそこに住む人々の生活を主な学習対象とし、世界の諸地域の多様性や地域的特色を理解する学習を通して、世界の地理的認識を養うことをねらいとしている。本時では、北アメリカ州の中でもアメリカ合衆国について取り扱う。人間と自然環境との相互依存関係や、空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、世界の各地域で見られる地球的課題の要因や影響をその地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することを主なねらいとしている。

巨大な農業生産力、工業生産力を有しているアメリカだが、なぜ多くの農作物で生産量の上位を占めることができるのか、どのように工業が変化したのか理解させる。また、これらの産業の発展には移民が大きな役割を担っていることを気付かせる。そして、多くの人々が生活するアメリカで生まれる文化は世界にどのような影響を与えているのかについて理解させる。

アメリカ合衆国はアラスカ州とハワイ州を除く、いわゆるアメリカ本土48州は、東西4,500キロメートルにわたり、4つの時間帯上に広がっている。地形の特徴は、西部にはロッキー山脈、東部にはアパラチア山脈がそれぞれ連なっている。ミシシッピ川が通る中央部には、大平原が広がっている。また、西経100度の経線を境に降水量が異なり、西部の乾燥地域と東部の湿潤地域に分けられる。アメリカの東部の多くは温帯で、北東部から中西部にかけては冷帯気候に属しており、針葉樹林が広がっている。一方、南部に位置する、フロリダ半島の南端は亜熱帯気候で1年中暖かい。アメリカ国内では、同じ日の最高気温の差が、場所によって摂氏約40度になることも珍しくない。面積は日本の約26倍と広大であり、上記に記した通り、アメリカにはさまざまな気候が存在する。それぞれの地域で気候が異なり、生産される農作物にも違いが表れている。

北アメリカ州の中でも、アメリカ合衆国は世界有数の工業国である。1890年に初めて工業生産高が農業生産高を上回って以来、アメリカの工業は急成長の迎え、1913年には、世界の工業生産の3分の1以上を占めていた。長くアメリカの経済を支えてきたのは自動車産業である。しかし、低価格で高品質の外国勢の台頭により少しずつ衰退の経路をたどっていく。そこで昨今の工業を支えているのはハイテク産業である。これに伴い工業の中心地も少しずつ変化してきている。自動車産業の最盛期には五大湖周辺が工業の中心地であったが、現在はサンベルトと呼ばれる北緯37度線以南のバージニア、ノースカロライナからカリフォルニアの南半分の範囲の温暖で広大なアメリカの南部地域が中心である。アメリカでは農業及び関連産業は、「アグリビジネス」と呼ばれる一大産業となっている。農業はアメリカの生活における不変の要素であり、アメリカで生産される食料は、安全、豊富、かつ廉価である。ア

アメリカの農業は、世界でもほとんど類を見ない豊かさと多様性を備えるようになった。これは今日に至るまで変わらず、主として豊富な土地と自然の恵みによるものである。西部の一部地域が雨の少ない砂漠になっている以外、アメリカ各地とも、降雨量に差はあるが、雨に恵まれている。また必要があれば、河川や地下水を利用した灌漑ができる。特に中西部は、平地やなだらかな丘陵が広がっているため、大規模農業に最適である。

アメリカのほとんどの地域では、土地が広すぎる上に労働力が足りないが、新しい技術を進んで受け入れるのがアメリカ農業の特徴の1つであり、19世紀を通じて次々と新しい道具や発明が導入された。南北戦争（1861～65年）の頃までには、干し草作り、脱穀、草刈り、耕耘、種まきといった作業は機械化されており、その結果、生産性が大きく向上した。

移民はアメリカの工業や農業の発展に一役買っている。工業では、近年発展しているハイテク産業など多くの企業で移民が中心的な役割を果たすことが多い。海外から大学に学びに来た移民がそのままアメリカで就職し、そのまま活躍している。農業では、機械化が進み、少ない労働力で広い面積を経営する大規模で企業的な農業がおこなわれている。しかし、全てを機械で行うことは難しく、労働力が必要である。そして、その役割を担っているのが移民である。アメリカにおいて、移民の存在を無視することはできない。アメリカの歴史は、移民と多様性の歴史でもある。元々、アメリカはコロンブスに発見されて以降、ヨーロッパの人々が移民として居住し、様々な民族が集まる国として発展してきた。国の誕生から今日に至るまで、移民によって成り立ってきたと言っても過言ではなく、まさしく移民大国と呼ぶに相応しい国になっている。

また、移民はチャンスを掴むためにアメリカに渡ってくることも少なくない。例えば野球ではメジャーリーグを目指し世界各国から一流の選手が集まってくる。今日、日本からも多くの選手がアメリカのチームに移籍しメジャーリーグで活躍している。その場合、国や地域の活性化につながることもあり移民が多いことは良いことのような印象を受ける。しかし、いくつかの問題が起こることもある。国際移住機関（IOM）によると移民とは「本人の法的地位や移動の自発性、理由、滞在期間にかかわらず、本来の居住地を離れて、国境を越えるか、一国内で移動している、または移動したあらゆる人」と定義されている。理由などにかかわらず紛争や迫害、または災害というように避難を余儀なくされる人もすべてを含めて移民とされている。求職や貧困を理由に他の地域に移動したり国内の身分制度から脱し他国で自由に職に就きたい、学びたいという思いで移動したりすることで移民が発生する。これに加えて紛争や迫害、災害が起これば難民を含む多くの移民が他国へと押し寄せることとなる。このような人々が他国へ大量に流入し、居住先や就業、所得など様々な問題が起こる。実際に今日では多くの移民が先進国へと流入し、様々な問題が起こっている。あまり話題にはなっていないが日本も世界でも上位に入る移民受け入れ国であり、すでに移民に関する問題は起こっている。

これらのことから、単元を貫くテーマは「移民が活躍する国 アメリカ」とする。アメリカに関する資料からアメリカ合衆国とはどのような国なのか考えさせたい。第1時では、北アメリカ州の全体像をとらえる学習を行う。その際、アメリカの標準時子午線の本数に触れ日本と比較することで、国土の広大さに気づかせたい。また、広大な土地にある様々な地形や緯度から気候について考えさせ理解を深めたい。

北アメリカ州という視点から、カナダとメキシコとのつながりについても取り扱う。その際は、教科書中の NAFTA が 2020 年 7 月 1 日をもって廃止され USMCA が発効されていることに触れることで、産業と人の移動というキーワードが生徒に印象付けられるようにしたい。授業の後半には、アメリカ建国の歴史について触れ、ヨーロッパからの移民が先住民の土地を奪ったことや、アフリカから奴隷を連れてきたことから、アメリカには多くの移民がいることに気づかせるようにする。第 2 時では、北アメリカ州の農業について学習する。その際、第 1 時で獲得した広大な土地に様々な地形や気候があるという知識を基に、どのような農業がおこなわれているかを予想させることで、知識を基に思考するという過程を身につけさせたい。予想を基に主題図を活用し、地形や気候ごとに農産業が違うことを読み取る活動を通して、適地適作についての理解を深めさせる。また、広大な土地で行われている農業の様子についてグーグルアースを使い説明する中で、センターピポットに気付かせ、大規模農業を営むために機械の活用や灌漑施設を設置していることを理解させたい。大規模農業の経営を進める様子から、企業的な農業が盛んであることに気づかせる。そこから、企業が利益拡大のために、バイオテクノロジーを駆使して生産量の増大を目指していることについて理解を深めたい。また、企業が利益を追求していることについても触れ人件費の観点から労働賃金の安い移民を雇用していることにつなげていきたい。第 3 時では、アメリカの工業について取り扱う。アメリカ工業の歴史に触れ、北東部の五大湖周辺で行われた自動車産業や製鉄業の発展をとらえつつ、日本やドイツから安く、質の良い自動車が流入してきたことで起きた貿易摩擦や、それに対してデモを行い抗議する労働者について理解させる。貿易摩擦は、アメリカ産業にどのような影響を与えたのかを予想させることで、課題探究への意欲を高めたい。貿易摩擦後、五大湖周辺の工業が衰退する一方で 1991 年 12 月に HPC 法を受けコンピューターなどの先端技術が発達したことを基に、アメリカの鉱山資源の分布資料から石油や天然ガスなどの資源が豊富な南部(サンベルト)に工業の拠点がしたことをつかませる。また、比較的温暖で安価な土地であることや、安い人件費の労働力を獲得できることにも触れるようにする。第 4 時では、第 2 時、第 3 時の学習からアメリカの産業を振り返り、アメリカを支えているのは、どのような人たちだろうという学習課題を設け予想させる。農業、工業、ハイテク産業の資料を配布しそれぞれから移民の活躍を読み取ることで、アメリカの産業を多くの移民が支えていることに気づかせる。また、北アメリカ州の特色を「移民の活躍する アメリカ」と位置づけるようにする。第 5 時では、第 4 時の「移民の活躍するアメリカ」という特色から、多くの移民が活躍している国では、どのような文化が形成されているのかということについて考えさせることで、グローバル化や多様化が進む世界でどのように生活していくことが求められているのかに気付けるようにしたい。その際、メジャーリーグや NBA で活躍する日本選手やアカデミー賞の受賞条件、アメリカのファストフードの資料を基に考えさせるようにさせ、他国の文化を理解することの大切さや、取り入れて発展していくことの素晴らしさについての理解を深めたい。

本時は、第 2 時、3 時の産業の学習を基に、「アメリカを支えているのは、どのような人たちだろう」という学習課題を立て、農業、工業、ハイテク産業、に従事する人々の資料からアメリカの産業は多くの移民が支えていることに気づかせたい。

導入では、大型トラクターの資料から、大規模農業について振り返りながら「このトラクターを運転するのは誰なのだろう。」と質問を投げかける。生徒に考えを発表させ、どのように考えているかを聞

く。その際、「移民」と出てくればなぜそう考えるのかさらに発問し、根拠があるか確認する。他の意見が出た場合にも「実際はどうか確認してみよう。」というような形で展開に持っていきたい。

展開では、学習課題の確認後、学級を9班に分け資料の読み取り活動と班の話し合い活動を行っていく。資料は、農業に従事する人の資料を読み取る班、工業に従事する人の資料を読み取る班、ハイテク産業に従事する人の資料を読み取る班、となるように各資料を3個班に分けて学習を進めていく。まずは、提示された資料や教科書を個人で読み取る時間を確保し、資料から得られる知識を習得する技能を身に付けさせたい。また、そこで得た知識を班で確認、伝え合うことで知識を活用して思考し、その考えを表現する力を身に付けさせたいと考える。また、班での話し合いの場面では机間巡視を行い、使用した資料の読み取りについて助言し、それぞれの資料から読み取ったり、資料を関連付けて考えたりすることを促したい。それぞれの班でまとまった意見は、発表補助シートを用いて発表する。

まとめでは、9班の意見から移民が活躍していることについてまとめ、移民が活躍していることについて感じたことや、これから自分自身がどのように現代社会で生活し、移民に対してどのように接していきたいか考えさせたい。

3 単元の目標

- ・北アメリカ州で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解している。【知識・技能】
- ・北アメリカ州において、地域でみられる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色を関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。【思考・判断・表現】
- ・北アメリカ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追求しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

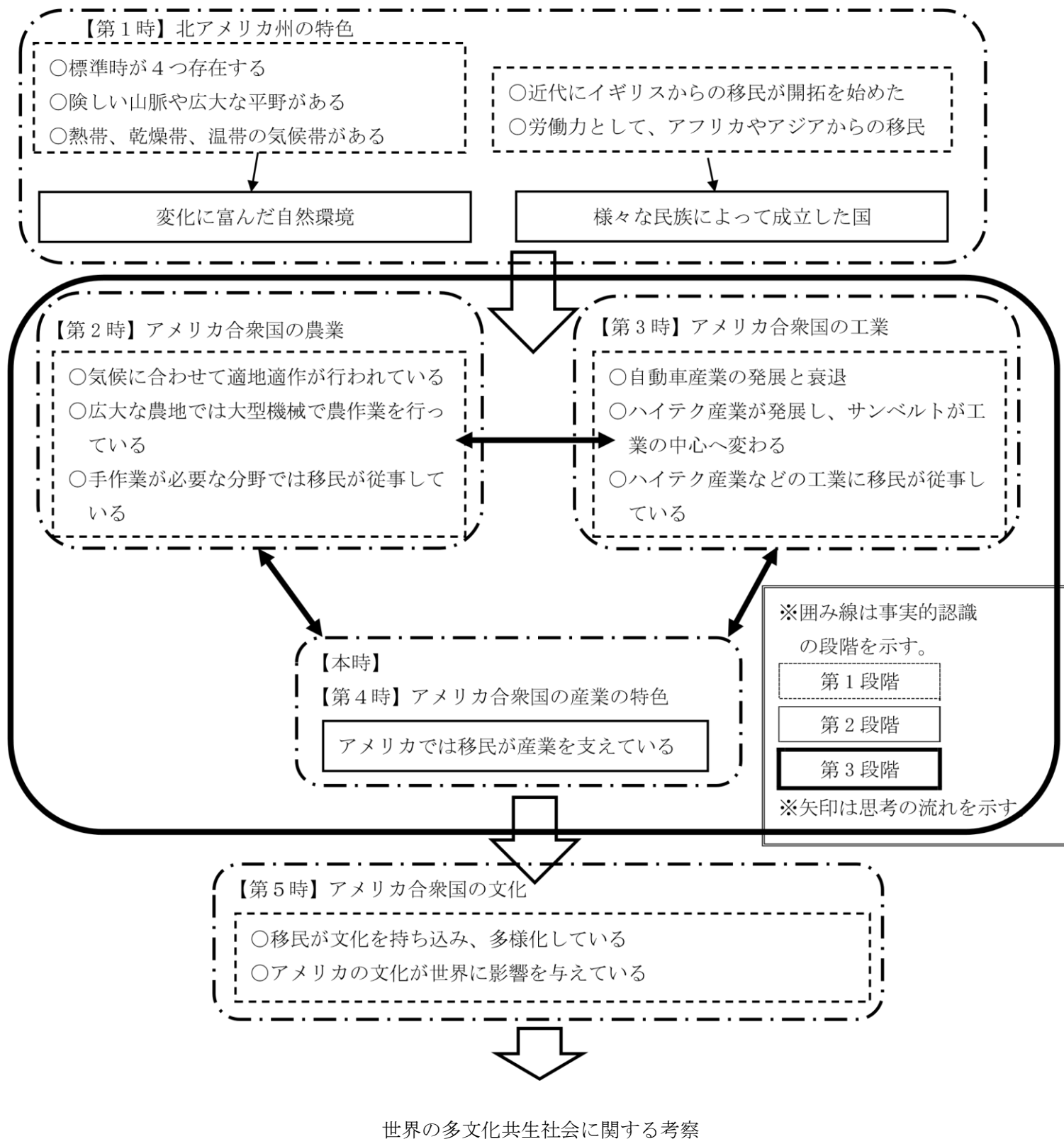
4 単元の指導計画

時配	学習内容および学習活動	評価（◇評価方法）
1	北アメリカ州の特色 雨温図や主題図から、北アメリカ州における気候帯と地形の分布を読み取る。 アメリカ合衆国における移民の出身州別人口の変化から、移民流入の歴史的背景を理解する。	雨温図や主題図から、北アメリカ州における気候帯と地形の分布を読み取っているか。 アメリカ合衆国における移民の出身州別人口の変化から、移民流入の歴史的背景を理解しているか。【知識・技能】 ◇資料読み取りの様子(机間指導) ノート記述 (重要語句に関する理解)

2	アメリカ合衆国の農業 アメリカ合衆国において、大規模農業が行われていることを、自然環境を踏まえて理解し、説明する。	アメリカ合衆国において、大規模農業が行われていることを、自然環境を踏まえて説明できているか。【思考・判断・表現】 ◇ノート記述(自分の考え、他者の考えを踏まえたまとめ)
3	アメリカ合衆国の工業 アメリカ合衆国における工業生産品目の変化から、産業構造の変化を理解する。	アメリカ合衆国の工業生産品目の変化から、産業構造の変化を理解しているか。 【知識・技能】 ◇資料読み取りの様子(机間指導) ノート記述(重要語句に関する理解)
【本時】 4	アメリカ合衆国の産業の特色 アメリカ合衆国における産業が、移民によって支えられていることを、第2時および第3時の学習を踏まえて理解し、説明する。	多くの移民がアメリカの産業を支えていることを理解することができているか。 【知識・技能】 アメリカの産業を支えている人の視点から、自分の考えを考察し、表現することができているか。【思考・判断・表現】 ◇ノート記述(自分の考え、他者の考えを踏まえたまとめ)
5	アメリカ合衆国の文化 移民によって成り立つアメリカ合衆国では、多様な生活文化が形成されていることを理解する。 地球社会の一員として、異なる文化をどのように受け入れていきたいか考える。	移民によって成り立つアメリカ合衆国では、多様な生活文化が形成されていることを理解できているか。【知識・理解】 ◇資料読み取りの様子(机間指導) ノート記述(重要語句に関する理解) 地球社会の一員として、異なる文化をどのように受け入れていきたいか考えているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 ◇ノート記述(自分の考え、他者の考えを踏まえたまとめ)

5 ねらい達成のための単元の指導計画

【単元を貫くテーマ】 「移民が活躍する国 アメリカ」



6 本時

(1) 本時の目標

- ・資料から、アメリカの産業に従事する人について読み取り、多くの移民がアメリカの産業を支えていることを理解することができる。【知識・技能】
- ・複数の資料より、アメリカの産業を支えている人の視点から、自分の考えを考察し、表現することができる。【思考・判断・表現】

(2) 本校社会科部会の研究と関連させた取組

資料の読み取りから得た知識をもとに、生徒同士の協働、教師との対話を通して、アメリカ合衆国の産業に従事する人々について、理解を深める。また、他者の考えを取り入れ、自分の考えを再構築していき、まとめたり、伝えたりすることができるようにする。

(3) 本時の展開

時配	学習内容と活動	留意点 (○) 及び評価 (◇)
導入 5 分	○アメリカの農業と工業の資料を提示し、どのような人たちが従事しているのか予想する。 「アメリカではどのような人たちが働いていると思いますか。」 ・アメリカ人 ・白人 ・移民 ・先住民 ○本時の学習課題を考える。	○自ら予想させることで、学習内容への関心を高める。 ○なぜそのように予想したのか聞き、根拠をもとに予想することができているか確認する。
展開	アメリカを支えているのは	どのような人たちだろう。 車→

5 分	○個人で 資料の読み取りを行い、気付いたことをワークシートに記入する。 資料を見て気づいたことを記入して下さい。また、複数の資料を関連付け、活用して構いません。」	○ワークシート、資料を配布する。 ○グループごとに異なる資料を配布する。 1号車→農業 2号車→工業ハイテク産業 ○個人での読み取りの時間を確保し、分の意見を持たせる。 ○机間指導を行い、読み取りの視点をつように助言する。
-----	---	--

15 分	※農業の資料 ①メキシコ系労働者がレタスを収穫している。 ②農業ではヒスパニック労働者の割合が一定の割合存在している。 ③20 から 30 代の人の割合が高くなっている。力仕事に関わる人が多いのではない。 ④短期季節農業で働く移民が急激に増えている。 ※工業の資料 ①ヒスパニックが働いている。仕事は基本的な技術を使ったもの。 ②高層ビルの建設にメキシコ出身者が関わっている。一生懸命働いている。 ③かつての自動車工場では、南部アフリカ系移民が働いていた。高い給料を目当てにしていた。 ④ヒスパニックの年収は低い。同じ移民でも人種によって年収が違っている。 ※ハイテク産業の資料 ①Google CEO がインド出身者である。 ②インド、中国から多くの留学生がやってくる。 ③トップ25の60%の企業には創業者グループに移民一世ないし二世が混じっている。 ④③で移民が混じっている企業の時価総額が高い。 ○班で、個人で考えたことを共有し、意見をまとめる。 「個人で考えたことを班で話し合い、発表の準備をして下さい。」	○それぞれが資料から得た情報を伝えあえるようにする。 ○机間巡視をしながら複数の資料を関連付けて考えさせるよう促す。 ○移民が活躍していることに気付かせる。 ○発表補助シートに記入させる。
------	---	--

		○使用している資料が、班で重ならないよう、複数の資料を参照するよう促す。
--	--	---

20 分	○各班で話し合ったことを全体で共有する。 ・ 1 → 4 → 7 → 2 → 5 → 8 → 3 → 6 → 9 の順で発表する。	○それぞれの産業を順番に確認していく。
まとめ 5 分	○本時の学習課題に対する答えをまとめる。 ・ 移民が産業を支えていた。	○アメリカの産業を移民が支えていることについてまとめる。

(4) 本時の評価

- ・ 資料から、アメリカの産業に従事する人について読み取り、多くの移民がアメリカの産業を支えていることを理解することができたか。【知識・技能】
- ・ 複数の資料より、アメリカの産業を支えている人の視点から、自分の考えを考察し、表現することができたか。【思考・判断・表現】

7 思考の構造図

【事实的認識の第3段階】

多様な人種・民族が共存することで、多様な産業が成り立っている。また、多彩な文化が形成されている。一方で、人種や民族、宗教の違いを乗り越え、多文化共生社会を築くことが地球的課題となっている。

a 【アメリカにおける事实的認識の第1段階・第2段階】

F アメリカでは、世界各地の文化が融合し、新たな文化が形成されている。

a プロスポーツでは、世界各地からアスリートが集っている。

b 世界から集まった移民が、音楽や映画などの文化を形成し、世界に発信している。

E アメリカでは移民が産業を支えている。

a 生鮮野菜や果物の栽培にはメキシコ系移民が従事している。

b ハイテク産業では、高等教育機関で研究した留学生が技術者として従事している。

A アメリカは、変化に富んだ自然環境をもっている。

a 東部にはロッキー山脈、西部にはアパラチア山脈があり、中央部は平原となっている。

b 日本の約 26 倍の広大な国土面積をもっている。

c 西経 100 度を境目に降水量が異なり、乾燥地域から湿潤地域までの変化がみられる。

d フロリダ半島では亜熱帯気候、アラスカでは冷帯気候がみられる。

B アメリカは、様々な民族によって成り立っている国である。

a 元々は、先住民であるネイティブアメリカンが生活を営んでいた。

b 17 世紀以降にイギリスから移民が流入し、開拓が進められた。

c アフリカからは労働力として、奴隷として連れてこられた。

d アジアやメキシコ、カリブ海沿岸地域からも仕事を求めて人々がアメリカにやってくる。

C アメリカは、変化に富んだ自然環境に合わせた農業が営まれている。

a 気候や土壌の環境に合わせた、適地適作が行われている。

b 大型機械やバイオテクノロジーを活用した企業的な農業が行われている。

D アメリカでは、時代に対応した工業が営まれている。

a 19世紀以降、鉄鉱石や石炭を活用した、鉄鋼業や自動車産業が行われた b 20世紀後半以降は、コンピューターや宇宙開発などのハイテク産業が発達した。